

ジャウイ文書研究会ニューズレター

第8号別冊

2002年12月1日

発行者：ジャウイ文書研究会事務局

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

電話 03-3238-3697 Fax 03-3238-3690

上智大学アジア文化研究所 川島緑研究室

e-mail: midori-k@sophia.ac.jp

ジャウイ綴りマレー語の書き方と読み方

山本博之 (東京大学)

目次

はじめに	p. 1
I <i>alif</i> (ا)	p. 3
1. 子音に挟まれた <i>alif</i>	
2. 「弱い e」と接辞	
3. 語頭の <i>alif</i>	
II 接辞	p. 7
1. 接頭辞	
2. 接尾辞	
III <i>ya</i> (ي)と <i>wau</i> (و)	p. 9
1. 母音に続く <i>ya</i> と <i>wau</i>	
2. 語頭の <i>ya</i> と <i>wau</i>	
IV <i>hamzah</i> (ء)の用法	p.10
1. 語尾の -k	
2. 連続する母音	
3. 接尾辞の -an	
4. 接頭辞 + <i>alif</i>	
V 慣用的な表記	p.12
VI <i>ain</i> (ع/ع)の用法	p.14
参考文献	p.16
付録：特徴によるジャウイ文字一覧	p.18

はじめに

ローマ字綴りのマレー語では、子音(C)と母音(V)の組み合わせで CV や CVC などの音節が表わされ、これらの音節が組み合わさって単語ができています¹。

例：ma-ta (CV-CV)
ka-wan (CV-CVC)
tan-pa (CVC-CV)
lam-bat (CVC-CVC)

ジャウイ綴りマレー語も、これと同様に、基本的に CV や CVC などの音節を組み合わせて単語を作る。

ただし、ジャウイ綴りマレー語では V を入れないで表記する場合があります。そのため、ジャウイ綴りマレー語を読む際には、個々の文字をローマ字に置き換えるだけでなく、必要な場所に適切な V を補わなければならない。

例：بولن b-u-l-n (CVCC) →bulan (CV-CVC)

V を補うためには、ジャウイで表記したときに V が落ちる法則を知る必要がある。そのため、以下ではまずジャウイ表記の「書き方」を整理し、それを通じて「読み方」の理解を試みる。

マレーシア地域におけるジャウイ綴りマレー語の表記方法は、なるべく V を落とさない方向で（つまり、ローマ字綴りと近づける方向で）進んできており、この過程は現在も進行中である。本稿では、ザアバによって 1940 年頃に書かれたジャウイ綴りの指南書を基礎に、20 世紀のかなりの期間にわたってマレーシア地域を中心に広く用いられていた法則を紹介する。したがって、本稿における「ジャウイ表記では……である」といった説明は、インドネシア地域や 19 世紀以前のジャウイ文書について必ずしもあてはまらないことがあることをお断りしておく（これらについてはできる限り注において言及した）。

■文字の基礎

ジャウイは、アラビア文字およびマレー語を表記するためにその一部を改変したものをを用いて表記する。（以下では、これらを総称して「ジャウイ文字」と呼ぶことにする。）したがって、アラビア文字が認識できないとジャウイを読むことはできない。本稿は、文字が前後に連結し、その際に形が変化する文字があることなどを含め、読者がアラビア文字の基本をすでに身につけていることを前提としている。なお、「特徴によるジャウイ文字一覧」を付録としているので、個々のジャウイ文字についてはそちらも参照していただきたい²。

¹ 音節の区切りを明確にするため、以下、本稿では 2 音節以上からなる単語をローマ字表記する際に音節ごとにハイフンで分けて表わす。また、本稿ではローマ字表記の際に文字に下線を付したものが登場するが、これは説明の便宜のためであり、現在のマレー語のローマ字表記で他の音と区別するために文字の上下に線や点を付すことはない。

² 本稿では、説明上の便宜のため、ジャウイ文字を以下の 3 種類に分け、それぞれ名前をつけ

ここでは、1つのジャウイ文字に2通り以上のローマ字表記がありうるもの、および連結のしかたによって形が大きく変わるものについてのみ取り上げる。

- (1) 母音にあたるジャウイ文字をローマ字に置き換える際には、法則にしたがって幾通りかの可能性を考えなければならない。その法則は以下の各節で説明されるが、さしあたっては、*alif* (ا) は a に、*ya* (ي) は i または e に、*wau* (و) は u または o に置き換える。
- (2) *fa* (ف) はローマ字綴りにしたときに p と f の2つの可能性がある。
- (3) *qaf* (ق) は主としてアラビア語起源の単語に用いられ、ローマ字綴りにしたときに k と q の2つの可能性がある。時代が下るにつれて k とする傾向がある。
- (4) *lam* (ل) と *alif* (ا) が繋がると、「لا」あるいは「لا」の形になる。

◆練習

以下の5つは、マレー語の単語をジャウイで表記したものです。ローマ字表記するとどの単語になるかを当てるのではなく、(実際の単語にはないものも含めて) ローマ字表記にすると何通りの可能性が考えられるかを答えてください。

- ① افي ② بوكو ③ لاكي ④ ريلا

I *alif* (ا)

1. 子音に挟まれた *alif*

(1) ローマ字綴りの a は、ジャウイ綴りでは *alif* (ا) で表わされる。CVC の音節で V が a の場合(「子音に挟まれた *alif*」の場合)には *alif* が落ちる。この法則は、CVC が単語の何音節目に来てても適用される³。

例: ma-kan → ma-kn ماكن

kam-bing → km-bing كمبيغ

sam-pah → sm-ph سمفه

alif 以外の母音が CVC の形で落ちることはない。したがって、ジャウイ綴りをローマ

ている。(1) 後ろの文字と続けて書かない r (ر)、o/u (و), d (د), a (ا)、および形の上で a に似ている l (ل) をそれらに加えたものの合計5つを、「横につながらない」という意味で「縦系」と呼ぶ。(2) 前後のつながり方によって形が変化する h を「特殊系」と呼ぶ。(3) 「縦系」「特殊系」以外の文字を「横系」と呼ぶ。(l (ل) は、「縦系」に分類されているが後ろの文字にはつながることに注意。)

³ 1音節の単語でも *alif* を落として CC の形にする。ただし、باب (bab)、خاص (khas)、حال (hal) などのようにアラビア語起源の語彙でもとの綴りに *alif* が入っているもの、および دان (dan) については、*alif* を落とさずに CVC の形にする。

字化する上で音節ごとに区切った結果が CC となった場合、CVC の形にするために i/e や o/u を補うことはない。

例： ماكن ma-kn→ma-kan (×ma-kin、ma-ken、ma-kon、ma-kun)⁴

◆練習

① تاهن ② سقسي ③ تمقر ④ كوندغ

(2)二重母音の ai/au は、i/u が子音である場合と同様に考えて上の法則を適用する⁵。

例： ra-mai→ra-mi/ra-me رامي

pi-sau→pi-su/pi-so قبسو

したがって、ジャウイ表記で音節が CV の形になり、V が *alif* 以外である場合には、C と V の間に a を補う可能性も考える必要がある⁶。

◆練習

① تافي ② كالو ③ سودارا ④ لنتي

2. 「弱い e」と接辞

(1)ジャウイ綴りでは「弱い e」を表記しない⁷。

例： ke-cil→k-cil كچيل

be-sar→b-sr بسر

ジャウイ綴りで CV の形で V が落ちるのは「弱い e」だけであり、「弱い e」以外の母音

⁴ ただし、インドネシア地域では CVC の形ですべての母音が落ちる。そのため、ここに挙げた例であれば、makan だけでなく makin などの可能性も考えられる。

⁵ 現在のマレーシア地域では、国立言語出版局 (DBP) によるジャウイ出版物などのように、この場合の *alif* を落とさずに表記しているものもある。

⁶ この点を考えると、上の「文字の基礎」の練習問題は、ローマ字表記したときの可能性がさらに増えることになる。

⁷ マレー語には母音が 6 種類ある。a、e、i、o、u に加えたもう 1 つの母音をここでは「弱い e」と呼ぶ。ローマ字表記では、かつては文字の上に記号をつけることで e と「弱い e」を区別していたが、現在では、ローマ字表記上は e と「弱い e」を区別しない。「弱い e」は、通常は第 1 音節に現われる。-isme のような語尾の「弱い e」は、例えば كوميونيسمي (Komunisme) のように、*ya* の下の点 2 つがない文字で表記される。

を補うことで CV の形にはしない。

例：کچیل k-cil→ke-cil (×ka-cil, ki-cil, ko-cil, ku-cil)

CVC で「弱い e」が落ちた場合、形の上では a が落ちたものと区別できないことに注意。

例：tem-pat→tm-pt تمقت (tempet、tampat とも読める⁸)

per-gi→pr-gi فرکي (pargi または parge とも読める⁹)

「弱い e」は、通常は第一音節に表われる。ただし、第二音節に「弱い e」が現れる単語もまれにある。

例：men-te-ri→mn-t-ri منتري

ten-te-ra→tn-t-ra تنترا

第1音節と第2音節ともに「弱い e」を伴う CV の形をとる単語の場合、CVC の a が落ちたものと区別できないことに注意。

例：ne-ge-ri→n-g-ri نكري

se-le-sai→s-l-si سلسي

(2)接頭辞の形には CV と CVC があるが、いずれも母音は「弱い e」なので母音が落ちる。

例：men-de-ngar→mn-d-ngr مندغر

ber-se-tu-ju→br-s-tu-ju برستوجو

接頭辞があるとジャウイ綴りでは語頭に子音だけが並び、形の上では CVC で a が落ちたものと区別ができないので注意。م (m)、ف (p)、بر (br)、تر (tr)、ک (k)、س (s) などが語頭に並んだ場合、CVC で alif が落ちた可能性のほかに、それらが接頭辞である可能性も検討する必要がある。

◆練習

① فرمقوان

② فنتس

③ برسياه

④ برساتو

⁸ マレー語では、「弱い e」以外の母音を含む音節の後に「弱い e」を含む音節は来ないため、この例で tampet となる可能性は考えない。

⁹ さらに、「1.子音に挟まれた alif」の(2)の法則により pergai または pargai とも読める。

3. 語頭の *alif*

(1) 語頭の「弱い e」

語頭の「弱い e」は *alif* で表記する。形の上では a で始まる単語と区別がつかない。

例 : em-pat → am-pt **امقت**

e-mas → a-ms **امس**

この法則は、接頭語を伴ったために形の上では語頭でなくなった「弱い e」にも適用される。

例 : ber-e-nam → br-a-nm **برانم**

◆練習

① **انتہ** ② **امق** ③ **اغکو** ④ **اغکن**

(2) 語頭の *alif*

アラビア語やヒンディー語に由来する単語には、ローマ字表記にしたときに語頭の *alif* が a や「弱い e」以外の母音になるものがある。

例 : iblis **ابليس**

ikhlas **اخلاص**

iklan **اعلان**

ikrar **اقرار**

imam **امام**

indah **انده**

insaf **انصاف**

insan **انسان**

intan **انتن**

Islam **اسلام**

isteri **استري**

istiadat **استعادة**

ombak **امبق**

umat **امت**

umpama **امقام**

undang **اندغ**

undur **اندر**

unta **انت**

untuk **انتوق**

untung **انتغ**

upacara **اچچار**

upaya **اقاي**

usaha **اساه**

ustaz **استاذ**

istimewa استميو

usul اصول

izin اذن

utama اتم

◆まともの練習

① اكوفاكي باجو هيجو.

② ابغ قندي تانم قادي.

③ كربو مندي دالم سوغي.

II 接辞

1. 接頭辞

(1) 語形変化しない接頭辞 (ke-, se-, di-)

ke-はk(ك)のみ、se-はs(س)のみ、di-はd(د)のみ書く。

例: ke-ba-nyak-an → k-ba-nyk-n كبايقن

di-cin-ta → d-cin-ta دچينتا

前置詞の ke と di も、接頭語の ke- や di- と同じように k のみ (d のみ) 綴る。

現行のローマ字表記では、前置詞の ke や di は続く名詞と離して書くが、ジャウイ綴りでは ke や di に名詞を続けて (ただし、d は「縦系」で後ろにつながらないので「近づけて」) 書く。

例: ke ban-dar → k-bn-dr كبندر

di pa-sar → d-pa-sr دقاسر

(2) ほとんど語形変化しない接頭辞 (beR-, teR-, peR-)

「弱い e」は書かれないため、それぞれ br-, tr-, pr- となる。例外 (belajar や belayar) に注意。

これらの接頭辞は、語幹が r ではじまる語につくときは R が落ちる。(ただし、ジャウイ綴りを読む場合は br-, tr-, pr- で始まるので同じこと。)

br-、tr-、pr-で始まる語は、接頭語 beR-、teR-、peR-による派生語である可能性がある。後ろに子音が続くときはそのまま切るが、母音が続くときは b-、t-、p-で切る可能性もある。

(3)語形変化する接頭辞 (meN-、peN-)

語頭の文字に応じて N の部分が変化する。「弱い e」は書かないので、いずれの場合でも「m+C」「p+C」で始まる。

m+C または p+C で始まる語は、接頭辞 meN-か peN-による派生語である可能性がある。m や p を取るだけで語幹が得られる場合もあるが、さらに続く文字を変化させる必要がある場合もある。

◆練習

- ① دتولیس ② بلاجر ③ مریندو ④ فلایر

2. 接尾辞

(1)-nya

ny(ن)のみ書く。

例：bu-ku-nya→bu-ku-ny بوکوٹ

(2)-an

①n(ن)のみ書く。

②r で終わる語に-an がつくときは、r と n の間に alif を入れる。

例：be-sar-an→b-sr-an بسران

③a で終わる語に-an がつく場合は hamzah を添えて nun を書く (以下、ローマ字では「'n」と表記する)。

例：go-da-an→go-da'n کودان

be-la-an→b-la'n بلان

④「ローマ字綴りでは a で終わるがジャウィ綴りでは語尾の alif を表記しない語」【→Vの1】につく場合は、語幹に alif を添えてから上の③の法則を適用する (すなわち、hamzah を添えて nun を書く)。

例：pem-bu-ka-an→pm-bu-ka'n قمبوکان

du-ga-an→du-ga'n **دوگان**

⑤kで終わる単語に接尾辞の-anがつく場合、(マレーシア地域では20世紀半ばごろまで -kan (-kn) をつけていた¹⁰。

例：pa-suk-an→pa-suk-kn **فاسوقکن**

(3)その他の接尾辞

例：-i (ي)

-kan (کن)

-lah (له)

-kah (که)

◆練習

① باچان

② مماجوکن

③ فرسامانش

④ کاتاکنله

III ya (ي)とwau (و)¹¹

yaは、CVCの形でもCVの形でも常に書く。

1. 母音に続くya

(1)母音に続いてyaがある場合、母音とyaの間で音節を区切り、yaはi/eではなくyと読む【→Iの1(2)】。

例：ka-yan→ka-yin **کاین** la-wat→la-wt **لاوت**

(2)alifに続くyaをi/eと読ませるには、alifとyaの間にhamzahを入れる(以下、ローマ字表記中ではhamzahを「'」で示す)¹²。

例：kain→ka'in **کأین** laut→la'ut **لأوت**

¹⁰ 以前はローマ字綴りでもkを入れていた。現在ではローマ字綴り/ジャウィ綴りともにkを入れずに-an(ジャウィ綴りでは-n)をつける。

¹¹ この項の法則はyaとwauに等しく適用されるため、説明中ではyaだけ取り上げ、例にはyaとwauをそれぞれ挙げる。

¹² 上の(1)と見比べてみれば明らかのように、このhamzahは異なる単語を書き分ける際に非常に重要な役割を果たしている。ただし実際のジャウィ文書では、このhamzahを書かずに(1)と(2)を表記の上で区別しない書き手も少なくない。

◆練習

- ①カون ②ماية ③لأين ④ناوغ

2. 語頭の ya

(1)語頭に ya がある場合、i/e ではなく y と読む。

例 : ya-yas يايس wak-tu وقتو

(2)語頭の ya を i/e と読ませるためには、ya の前に alif を置く。この alif は続く ya や wau が母音であることを示す標識であり、それ自体は発音されない。

例 : i-kan ايکن o-rang اورغ

(3)同じ形を、alif の後で区切って上の 1(2)の法則から a-y.../a-w... と読むこともできる。

例 : a-yah ايه a-wan اون

◆練習

- ①ايكور ②اية ③اول ④اولغ

◆めとまの練習

- ① قلاير بکرجا دلاوت.
② امفت ايکور ایم دجوال.
③ باغوننش براره کسلاتن.

IV hamzah (ء) の用法

1. 語尾の-k

いくつかの単語では、語尾の k を hamzah で表記する。(k で表記することもある。)

例 : ro-kok → ro-ko' روکوء

en-cik → an-ci' انچيء

2. 連続する母音

(1) *alif-ya* や *alif-wau* のように、母音が続く場合は後ろの母音を子音と見る【→Ⅲの 1(1)】。
ただし、母音の間に *hamzah* がある場合にはどちらも母音と見る。

例：سأیغ sa'ing→saing (sayang は سایغ)

(2) 母音で終わる単語に接尾辞の *i* がついた形で現われることもある。

例：mncinta'i→men-cin-ta-i منچینتای (من+چینتا+ی)

3. 接尾辞の-an

語尾の *alif-hamzah-nun* は、*alif* までの語幹に接尾辞の-an がついたもの【→Vの 2(2)】。

例：go-da-an→go-da'n کودا (ن+کودا)

◆練習

① فو کوء ② داتوء ③ ممقویای ④ بلآن

4. 接頭辞+alif

(1) *alif* で始まる語に *se* や *ke* などの接頭辞がつくときは、*alif* に *hamzah* をつける。

例：se+ikat→sa'i-kt سآیکت (س+ایکت)

※語頭に *sa'* や *ka'* の形がある場合、*hamzah* を *alif* の前に移して *s'+alif* や *k'+alif* の形にして、*s'* や *k'* を接頭辞、*alif* 以下を語幹と考えると捉えやすい。

例：سآیکت sa'ikt→s'-aikt→se-i-kat (س+ایکت)

سآندی sa'ndi→s'-andi→se-an-dai (س+اندي)

(2) *orang* や *ekor* など一部の語では、接頭辞 *se* がつく場合に語幹の先頭の *alif* が落ちて後ろにつながる形になる¹³。

例：se-o-rang سئورغ (سأورغとはしない)

se-e-kor سئیکور

◆練習

① دآ کوی ② کآیمانن ③ سآق ④ سآمقام

¹³ 現在のマレーシア地域では、『ウトゥサン・ムラユ』紙や DBP 発行のジャウィ出版物などがこの慣用を廃し、*alif* を入れた表記を用いている。

V 慣用的な表記

1. CV で「弱い c」以外の V が落ちる例

語尾が a の単語は、以下の場合に語尾の *alif* を落とす。

(1) 語尾の直前の音節が CV の形で母音が a であり、最終音節の子音が「横系」(ただし ng は除く) の場合。

例 : sa-ya → sa-y ساي

ma-ta → ma-t مات

(2) 語尾が ka または ga である場合。

例 : bu-ka → bu-k بوك

mu-ka → mu-k موك

ju-ga → ju-g جوك

me-re-ka → m-re-k مريك

ti-ga → ti-g تيگ

2. CVC で *alif* 以外が落ちる例

wau を含む音節が 2 つ続く単語では、一方の *wau* が落ちる場合がある¹⁴。

(1) CV-CVC の形では後ろの *wau* が落ちる。

例 : tu-run → tu-rn تورن

tu-tup → tu-tp توتف

(2) CVC-CVC の形では前の *wau* が落ちる。

例 : kum-pul → km-pul كمقول

rum-put → rm-put رمقوت

¹⁴ この法則は、母音が *ya* である場合には適用されない。

※音節に区切って CC の形になった場合、CVC にするためには通常 *alif* を補うが、前後の音節の V が *wau* である場合には *wau* を補う可能性もある。

このため、ジャウィ表記では同じ綴りでもローマ字表記では異なる単語になる場合もある¹⁵。

例： تولغ *tu-lng* → *tolong* または *tulang* と読める

◆練習

- ① کات ② مان ③ قوله ④ سڠکوه

3. その他の慣用綴り

◇動詞

a-da → *a-d* اد (ある/いる)

◇前置詞

pa-da → *p-d* قد (~に)

ke-pa-da → *k-p-d* کقد (~に)

da-ri-pa-da → *d-r-p-d* درقد (~から)

se-per-ti → *s-pr-t* سفرت (~の如く)

◇疑問詞

a-pa → *a-p* اف (何)

◇指示代名詞

i-ni → *ain* این (これ)

i-tu → *ait* ایت (それ/あれ)¹⁶

◇人称代名詞

i-a → *ai* اي (それ)

¹⁵ 現在のマレーシア地域では、『ウトゥサン・ムラユ』紙や DBP 発行のジャウィ出版物などがこの慣用を廃し、*wau* を入れた表記を用いている。

¹⁶ اتو (*atau*) を *itu* と読み間違えることが多いので注意。

di-a→di دي (彼/彼女)

◇接続詞

ji-ka→j-k جك (もし)

ser-ta→sr-t سرت (そして/参加する)

ma-ka→m-k مك (それで)

◇その他

li-ma→li-m ليم (5)

se-ga-la→s-g-l سكل (すべての)

su-a-tu→su-a-t سوات (或る)

ke-mu-di-an→k-m-di-n كمدين (その後に)

de-mi-ki-an→d-m-ki-n دمكين (そのように)

※kemudian と demikian を除き、ジャウイ表記ではどれも語尾の V が落ちているが、これらに-lah や-kah などの接尾辞がつくときにはジャウイ表記でも語尾の V を書く。

◆ 習練のめとま ◆

① جك ساه تولغ تنجوقكن.

② سفرت اف يغ دفرچايأي.

③ ساي كات كقد مريك.

VI ain (ع/ع)の用法

ain(ع/ع)を伴う単語のローマ字化を考えるにあたって、次の2つの問題がある。

第一に、単語のどの位置にどう置かれるかによって、ain にローマ字のどの文字を当てるかが異なる。(1)語頭に置かれた場合、(2)子音に続く場合、(3)最終音節に置かれた場合でそれぞれ異なり、また、それぞれの場合について①ain が単独で用いられるか②後ろに alif を伴うかでも異なるため、ain の用法を整理するには6通りの場合分けが必要になる。

第二に、ain を伴う単語のほとんどがアラビア語起源のものであり、原語綴りに従って a 以外の母音が落ちているものもあるため、下の例の(1)の②の alam と alim のように、ローマ字綴りでは異なるけれどジャウイ綴りでは同じになるものが生じる。ジャウイ綴りは現在までなるべく母音を補う方向に進んできたが、ain を伴う単語については、アラビア語

の綴りをなるべくそのまま用いようとする意識が強く働くためか、原語綴りに忠実な綴り方も依然として残っており、母音の表記法の時代差・地域差・個人差による揺れが比較的大きいように思われる¹⁷。

後者の問題は本稿で扱う範囲を超えているため、ここでは前者で挙げたそれぞれの場合について、*ain* がどのようにローマ字化されるかの例を挙げることにする。

なお、*ain* は、前の文字から繋がらない場合(ع)と、前の文字から繋がる場合(ع)で形が異なることに注意。

(1) 語頭に置かれた場合

① 語頭の *ain* (ع) は、単語によって a, i, u のいずれかをあてる。

例 : <i>adat</i> عداة	<i>alam</i> علم
<i>amal</i> عمل	<i>Arab</i> عرب
<i>askar</i> عسكري	<i>ibadat</i> عبادة
<i>ibarat</i> عبارة	<i>ilmu</i> علم
<i>ulama</i> علماء	<i>umum</i> عموم
<i>umur</i> عمر ¹⁸	<i>unsur</i> عنصر

② 語頭の *ain-alif* (عا) は、ほとんどの場合、*ain* と *alif* を合わせて a をあてる。

例 : <i>adat</i> عادة	<i>adil</i> عادل
<i>alam</i> عالم	<i>alim</i> عالم
<i>am</i> عام	<i>arif</i> عارف
<i>asyik</i> عاشق	
例外 : <i>ilmu</i> عالم	

(2) 子音に続く場合

① 子音に続く *ain* (ع) は、ほとんどの場合 ak をあてる。

例 : <i>dakwa</i> دعوا	<i>takbir</i> تعبير
<i>takluk</i> تعلق	<i>takrif</i> تعريف

¹⁷ 近年では、*ain* を伴う単語も伴わない単語も等しく扱い、なるべく母音を補ってローマ字綴りと近づけようとする傾向がある。

¹⁸ Omar(人名)とも読める。

maklum معلوم

makmur معمور

makna معنا

rakyat رعية

yakni يعني

例外 : Kaabah كعبه

②子音に続く *ain-alif*(عا)は、多くの場合 aa をあてる。

例 : faal فعال

maaf معاف

例外 : doa دعا

(3)最終音節の場合

①語尾の *ain*(ع)は k をあてる。

例 : rujuk رجوع

tamak طمع

②最終音節で後ろに子音を伴う *ain*(ع)は、a をあてることが多い。

例 : saat ساعة

tabiat طبيعة

taat طاعة

例外 : syair شعر

【参考文献】

Abdul Razak Abdul Hamid, Haji & Mokhtar Mohd. Dom, Haji. 1977(1992). *Belajar Tulisan Jawi*. Kuala Lumpur: Penerbit Fajar Bakti.

[英語とマレー語によるジャウイ綴りの書き方と読み方の入門書。説明が丁寧で、練習問題も充実しており、初心者への独習に最適。用いられている法則は本稿で扱った法則とほぼ同じだが、*ain* の用法など、いくつかの重要な項目の説明がない。]

Dewan Bahasa dan Pustaka. 1999(1988). *Daftar Ejaan Rumi-Jawi*. Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka.

[ザアバによる *Daftar Ejaan Melayu Za'ba* (1938 年発行) をもとに、ジャウイ表記検討作業委員会が半世紀ぶりに改訂して作成したローマ字→ジャウイ綴りの対照表。冒頭部分には接辞を中心とするジャウイ綴りの簡単な説明があるが、あまり参考にならない。-ai の a や CuCuC の u を落とさないで表記する。]

Dewan Bahasa dan Pustaka. 2001. *Daftar Kata Bahasa Melayu*. Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka.

[ローマ字→発音記号→ジャウイ綴りの対照表。上下 2 巻に基語 18400 語、派生語 26600

語を収録。上巻の冒頭部分では、*Pedoman Ejaan Jawi Bahasa Melayu* に若干の修正を加えたものがジャウィ綴りの説明として掲載されている。]

Hamdan Abdul Rahman. 1999. *Panduan Menulis dan Mengeja Jawi*. Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka.

[*Pedoman Ejaan Jawi Bahasa Melayu* をもとに、同書の理解にほとんど寄与しない例を著者が大量に添えて膨らませたもの。]

Hashim Haji Musa. 1999. *Sejarah Perkembangan Tulisan Jawi*. Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka.

[トレンガヌ碑文から現在までのジャウィ綴りの変遷を扱った研究書。]

Ismail bin Dahaman & Manshoor bin Haji Ahmad (eds.). 1996. *Pedoman Ejaan Jawi Bahasa Melayu*. Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka.

[1984年の研究大会に基づいてジャウィ表記検討作業委員会が出版し、ジャウィ綴りの新たな指針として参照された *Pedoman Ejaan Jawi yang Disempurnakan* (1986年発行)の新訂版。1991～95年に行われたジャウィ綴りに関する研究会議の結果を受けて改訂したもの。ジャウィ綴りの表記の法則を19の項目に分けて説明し、外来語の表記法や慣用表記など、*Belajar Tulisan Jawi* で詳しく扱われていないものを多く取り上げている。練習問題はない。-ai の a や CuCuC の u を落とさないで表記する。]

Zainal Abidin bin Ahmad (Za'ba). 2000(1941). *Pelita Bahasa Melayu, Penggal I-III*. Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka.

[「マレー語文法の父」と称されるザアバが1940年代に出版したマレー語の綴り方指南書(全3巻)の復刻版。]

付録 特徴によるジャウィ文字一覧

(1) 「～に点」(横つながり系)

	(点なし)	(上に点)	(下に点)
横棒	ي (弱いe)	ن n	ب b
		ت t	ي i/e [y]
		ث th/ny*	ي ny*
*nyは、後ろに続かないときは「上に点3つ」、続くときは「下に点3つ」。			
カギ	ح h	خ kh	ج j
			چ c
歯形	س s	ش sy	
楕円	ك s	ك d	
楕円に縦棒	ط t	ظ z	
Cの字	ع (a)	ع gh	
		ع ng	
扇	ع (a)	ع gh	
		ع ng	
輪	م m	ف f(p)	
		ف q(k)	
		ف p	
???	ك k	ك g	

(2) 縦系

ا a		
ل l		ك k
د d	ذ dh(z)	
ر r	ز z	
و u/o [w]	و v	

※「縦系」の文字は(1を除いて)後ろに文字が繋がらない(「rodaの法則」)

(3) 特殊系

ه h(先頭)	
ه h(中間)	
ه h(末尾)	ة t(末尾)
ه h(単独)	ة t(単独)

このニューズレターはジャウイ文書研究会の記録、および、ジャウイ文書研究に役立つ情報提供を目的としており、研究会出席者に会場で配布しています。研究会に出席できない方でこのニューズレターの入手を希望される方は、希望する号を明記し、あて先を記入し、240円切手を貼った A-4 サイズ返信用封筒を同封の上、お申し込みいただければ、郵送いたします。なお、研究工具や資料、文献の紹介、研究報告など、投稿を希望される方は、事務局にご連絡ください。

ジャウイ文書研究会ニューズレター 第8号 別冊
「ジャウイ綴りマレー語の書き方と読み方」 山本博之

(2002年11月30印刷)

2002年12月1日発行

発行者：ジャウイ文書研究会事務局

電話：03-3238-3697 Fax：03-3238-3690

上智大学アジア文化研究所 川島緑研究室

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

e-mail: midori-k@sophia.ac.jp